

手をつなごう2007

平成19年11月19日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 22



備前地域

第2回専門家チーム・ 巡回相談員連携会議開催



11月8日に岡山南養護学校を会場にお借りして開催しました。

各校の支援実績報告と情報交換では、何時から何時まで支援に出かけているのか、検査依頼への対応はどうしているのかなど具体的な情報交換ができました。

また、夏休みに「学校コンサルテーション方法論セミナー」に参加したコーディネーター富谷が伝達講習をさせていただきました。短い時間でしたので、かいつまんでの話になりましたがコンサルテーションを進

めていく上で大切にしたいことを共通理解できたように思います。

最後に専門家チームの先生方より次のようなご助言をいただきました。

- ・巡回相談員と学校側の責任と役割を明確に（確認）することが大切。
- ・巡回相談の効率的な時間の使い方を考えることで、効率的な話し合いにつながっていくのではないかな。
- ・これからの巡回相談の方向性として、学校側で情報をまとめてもらい、確認しに行く、考えるヒントを与えるという方向が望ましい。
- ・心理検査はできれば子どもに近い立場の人がして、積極的に指導に生かして欲しい。

備前地域の専門家チーム員と巡回相談員が一同に会しての有意義な会となりました。
今回は2月20日、岡山東養護学校を会場にお借りして開催する予定です。

内地留学で学んだこと

9月の1ヶ月間、「おかやま発達障害者支援センター」で研修の機会を与えられました。これだけの間学校現場を離れて研修するのは初めてのことでたいへん有意義な研修でした。

幼少期の子供達から成人の方まで幅広い年齢

の発達障害の人と接することでそれぞれのライフステージでの課題を、ほんの一部かもしれませんが、見つけることができたように思います。特に成人の方の面接に同席させてもらった時には、驚かされることがたくさんありました。発達障害の人が社会の中で生きていくことが、いかにたいへんであるかを思い知らされました。



通勤のバスが渋滞にはまり、イライラして他の乗客とトラブルを起こしてしまった人、否定（禁止）言葉を聞いただけで学生時代のつらい思い出が想起されて苦しんでいる人、職場で爪を剥ぐけがをしたにもかかわらず誰にも訴えることができずに放置して重症化してしまった人。いずれも発達障害が根底にあるがゆえの問題であります。

今回の研修で「特性に配慮する」ということの大切さをあらためて認識しました。先生方は日頃、子供一人一人の特性に配慮した支援をされているとは思いますが、さらにその特性が将来の社会生活でどのような生きにくさに繋がっていくかを見通すことも必要ではないでしょうか。その子なりの自立の姿を想像し、そのために今何をしておくべきかという視点を持つことの大切さを感じています。



（コーディネーター：久本）